

公共交通とCOOL CHOICE 交通編 1

1・人口減少・超高齢社会への対応

2・集約したまちを公共交通で繋ぐ

3・鉄道を基軸としてバス路線再編

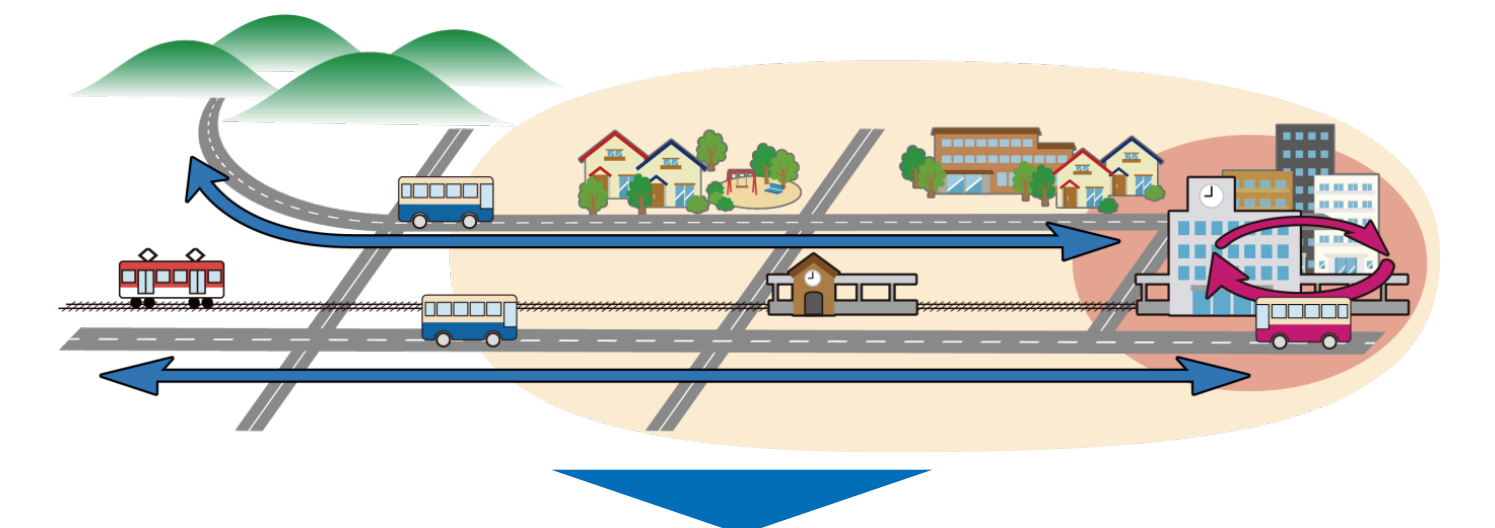
効率的な都市経営
CO₂削減・地球温暖化対策に寄与

現状

- 多くのバス系統が中心部まで運行しているため、鉄道およびバスと平行して運行する区間も多く、かつ、運行距離が長い。

このまま将来を
迎えると・・・

- 鉄道とバスともに利用者が減少
- 利用者が少ない傾向にある郊外部からサービス低下、さらには廃線となる可能性。



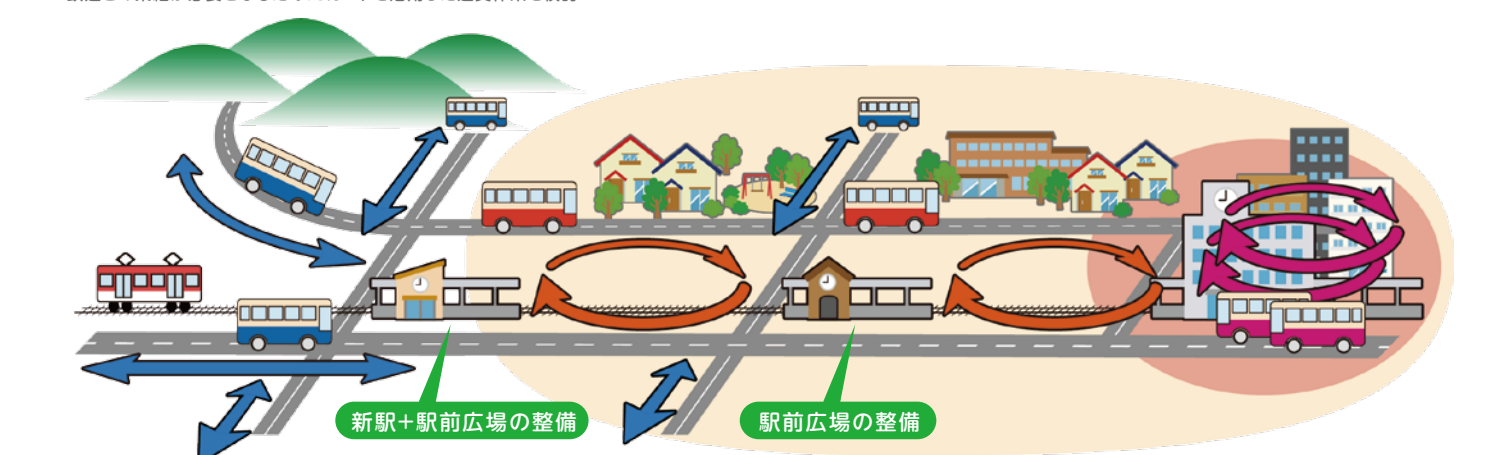
将来に向けた公共交通ネットワーク再構築の具体的考え方

1 鉄道を公共交通幹線軸と位置付け、平行して運行するバス路線区間の見直し
⇒郊外部と公共交通結節拠点間のフィーダー路線化

※鉄道との乗継が必要となるためICカードを活用した運賃体系を検討

2 バス路線空白地域や郊外部拠点
施設へのアクセス性の確保
⇒上記地域・施設と公共交通結節
拠点を經由する循環系統の運行

3 都心地域内の回遊性の向上
⇒都心地域内の主要施設・拠点を有機的に連絡する循環系統の系統(まちなかループバス等の強化)



公共交通とCOOL CHOICE 交通編 2

高松市が持つ“強み”を生かした 「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくり

公共交通ネットワークイメージ図



具体的事業

- 新駅、駅前広場整備(バス接続を主とし、パーク アンド ライド駐車場等も整備)
- 鉄道幹線軸強化(複線化)
- バス路線再編(フィーダーバス化)
- 新交通システムの検討

期待される効果

- 地域内交通の連携強化
⇒多様な移動環境の構築(拠点形成の促進)
- 都市間交通との連携強化
⇒交流人口の増加による“にぎわい”創出
- 道路負荷低減
⇒質の高い生活環境の構築

ことடன்新駅(三条～太田駅間)イメージパース

